



BRIDGEの取組が、時事通信社「教育奨励賞」推薦校の実践として『内外教育』（第7213号）に掲載されました。

## 「探究の授業って必要？」

私自身が授業を担当しているクラスのあるグループが「探究の授業は必要か？」という問いを立て、「先生が授業でやるんだから必要なんだろうけれど、あまりやる意味が分からない。あ～、次探究か～、ダルいな。」

そんなことを感じたきっかけから彼らの探究活動が始まりました。自他共に認める探究LOVEの私のクラスで、このようなテーマに取り組むグループが出たことに、一瞬ドキッとしました。しかし「自由に興味があること、疑問に感じる事に取り組むことを、誰にも否定されない安心な環境」であると受け止め嬉しく感じました。そして、ネット上にあがってる探究の授業に関する様々なデータを調べ、生徒や先生にアンケートをとり、「まだよく分からないが、おそらく必要だ」という仮説には到達したようです。教員が何度も必要性を語るより、自分たちで考え調べた結果、必要であるようだ。という仮説はきっと力を発揮すると思います。また、1年間の取り組みを振り返るアンケートにも、「もっとこうしたかった」という、自らの課題の発見につながったコメントも多く見られました。ぜひこれからの学校生活を含めた将来に活かして行ってほしいと思います。

## 1年間の活動を終えた、生徒の感想を紹介します。

周りの人を納得させる中で新たな疑問が自分の中に生まれるという感覚が持てた。

自分が思っていることから、新しい発見ができたのは、いろんな人との交流があってこそだった。

疑問をなんとなく自己解決して満足することなく、行動して答えを探すのは貴重な体験であり、社会に出てからも活用するということを学んだ。

まず楽しかった。仲間と一つのテーマに対して知見を深めていくのは良い体験になったと感じているし、自分の考え方と他人の考え方が合わずに悩んだこともあったが、最終的にそのくだりがあったからこそよりよい探究活動が出来たのかなと思う。

身近で接する機会が多い物事ほど強い共感を得られる代わりに解釈違いを起こしやすいので、どうしたら納得してもらえるか、何を証明すればよいかについて悩むことが多かったです。

小さな疑問を持ち、積極的に調べることで自分の世界が広がることに気づきました。

一つのことを掘り深めていくこともいいかもしれないけれど、それに関連する物事を考えることによって自分が一番知りたいことを発見することができた。

## BRIDGEはつづく、、

BRIDGEの時間を通じて、皆さんが学んだこと、困ったこと、できたこと、できなかったこと、どんな気づきも将来につながっていく大切な発見であると思います。人から指摘されたからではなく、「自分が」どう考えるかを大切に、これからも「探究する」ことを続けて行ってほしいと願います。

